

平成21年度 損害保険会社決算概況

1. 平成21年度決算の特徴点

コンバインド・レシオ(損害率+事業費率)は100%を超えたものの支払備金戻入の発生もあり、保険引受利益は増益となりました。

資産運用では、利息及び配当金収入の減収はあったものの、金融危機による市場の混乱も落ち着きを取り戻したことから、有価証券評価損等の資産運用費用が大幅に減少したため、経常利益および当期純利益ともに黒字に転換しました。

2. 決算概況

経常収益は、保険引受収益が8兆5,427億円、資産運用収益が5,725億円となった結果、20年度比2.5%減の9兆1,444億円となりました。

一方、経常費用は、保険引受費用が7兆2,633億円、資産運用費用が2,009億円、営業費及び一般管理費が1兆2,962億円となり、20年度比8.7%減の8兆7,938億円となりました。

この結果、経常利益は、20年度比6,085億円増益の3,505億円、当期純利益も同期比2,878億円増益の2,068億円となりました。

3. 保険引受の概況

(1)正味収入保険料

正味収入保険料は、自賠責保険料率の大幅引き下げの影響が21年度にも残り、また、海上・運送保険が引き続き大幅な減収になるなど、全種目で減収となった結果、20年度比2.7%減収の6兆9,711億円となりました。

* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

(2)正味支払保険金

正味支払保険金は、自動車保険や傷害保険では増加したものの、自賠責保険や海上・運送保険は減少したことから20年度比0.7%減の4兆3,679億円となりました。

* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

損害率は、正味支払保険金は減少したものの、正味収入保険料の減収幅には及ばず、1.5ポイントアップの68.1%となりました。

(3)保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、業務体制整備に向けた投資等が一段落したこともあり、20年度比3.8%減の1兆2,200億円となり、事業費率は0.1ポイントダウンの35.0%となりました。

(4)保険引受利益

保険引受利益は、正味収入保険料の減収等の減益要因はあったものの、支払備金戻入の発生、営業費及び一般管理費や正味支払保険金の減少などの増益効果により、20年度比 234.6%増益の 543 億円となりました。

* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び一般管理費 ± その他収支

4. 資産並びに資産運用の概況

平成 21 年度末の総資産は、株価が 20 年度末よりも持ち直したことから保有株式の時価上昇により、20 年度末の 29 兆 9,411 億円から 5.2%増の 31 兆 4,956 億円となりました。

また、純資産は「その他有価証券評価差額金」の回復もあり、20 年度末の 4 兆 2,590 億円から 30.1%増の 5 兆 5,414 億円となりました。

資産運用については、資産運用収入の中核をなす利息及び配当金収入が、株式配当の減収により 20 年度比 15.4%減収の 5,018 億円となりましたが、有価証券評価損などの資産運用費用が大幅に減少したことから、資産運用粗利益は黒字に転換しました。

* 資産運用粗利益 = 資産運用収益 - 資産運用費用

5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、「その他有価証券評価差額金」の回復もあり、上昇している会社が多くなりました。

なお、全社とも法律で求める適正な水準であり、健全性については問題ない状況です。

本集計は次の協会加盟会社(27社)の単体決算に基づき報告しています。

あいおい損保、朝日火災、イーデザイン損保、アドリック損保、アニコム損保、エイチ・エス損保、SBI損保、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぼ 24、大同火災、東京海上日動、トーア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

損害保険会社の平成21年度決算概況

億円

